平成9年度九州支部講演会報告

平成10年2月16日，福岡管区気象台において平成9年度九州支部講演会が開催された．

プログラムは下記の通りで，大気境界層・陸面過程の分野では，野外観測・風洞実験・数値シミュレーションなど多彩な手法を用いた，7件の発表がなされた．特に，赤外放射温度計を用いた幅1.5 mのミニロール状対流の観測や，50 mメッシュでの気温分布推定などは，ユニークな研究として注目を集め，また斜面状での熱フラックスがどうなるかという問題提起も興味深いものであった．集中豪雨の本場，九州ならではの大雨関連の講演も6題を数えた．今年は図らずも，大雨への地形の影響を主張する研究がそろい，100 kmスケールの九州山地から，10 km程度の島，幅数kmの谷に至るまで，様々な規模の地形と雨の関連が示される一方で，会場からは地形以外の要因まで考察する必要性も指摘されるなど，活発な議論が続いた．ローカルな現象の盛況ぶりに比べ，グローバルな現象については中層大気中のオゾン輸送に関する1件に留まったのが，物足りない点であった．

午後一番には，(財)日本気象協会関西本部の光田寧相談役による特別講演「台風による風災害予測」が行われた．竜巻をテーマにした前半は，航空機から撮影された竜巻のビデオ上映に始まり，竜巻で飛ばされた角材がミサイルの様に家屋に突き刺さった写真や，地表面粗度の大きい東京都心のビル街には，ドーナツの穴の様に竜巻の被害が出ない空白域が広がっているといった，興味深いトピックも紹介された．後半は台風の風の話に移り，「80%以上の確率で生じる家屋被害は5%程度」といった，定量的リスク評価の試みが紹介された．この特別講演の設定については，(財)日本気象協会福岡本部に多大なるご協力をいただいた．

(福岡管区気象台　島津好男)

平成9年度九州支部講演会プログラム

1．UARSデータに基づく非断熱子午面循環の見積もり：辻　政二（九州大学理学部）他
2．丘陵地（唐津上場台地）の圃場の蒸発散量評価について—複雑地形域のフラックス評価に関する研究（1）：北村裕司（九州大学農学部）他
3．久住山麓の草地斜面の熱収支特性について—複雑地形域のフラックス評価に関する研究(2)：手嶋準一（九州大学農学部）他
4．福岡市及びその周辺地域における降雨特性（2）—1997年7月28日の豪雨—：松井桂子（九州大学農学部）他
5．九州に停滞した強雨域の気象庁領域モデル予想値と特別高層観測データを用いた解析：島津好男（福岡管区気象台）
6．大分県西部を中心とした土砂災害の形態変化：花宮廣務（大分地方気象台）
7．1997年7月上旬の薩摩地方北部の大雨（鹿児島県出水市針原地区の土石流災害発生時の気象状況について)：田代誠司・中矢清一(鹿児島地方気象台)
8．台風9719による九州南部の豪雨について—成層不安定度を主とする解析—：用貝敏郎（鹿児島航空測候所）
9．長崎県高来町周辺で発生した1995年7月11日の雷雨：荒生公雄（長崎大学環境科学部）他
10．熱的内部境界層中の排煙拡散：大場良二・河内昭紀（三菱重工業（株）長崎研究所）
11．久住山麓で観測された斜面下降風の特徴：森　牧人（日本学術振興会特別研究員（九州大学））他
12．植物体面積指数の違いによる群落内の風速分布について：辻　多聞（鳥取大学大学院連合農業研究科）早川誠而（山口大学農学部）
13．熱赤外画像が捉えたロール状の対流：中本恭子（鳥取大学大学院連合農業研究科）他
14．山口県における夜間気温のメッシュ値について：高山　成（山口大学農学部）他

特別講演

「台風による風災害予測」

光田　寧（(財) 日本気象協会関西本部相談役）

講演要旨集（特別講演を除く）には残部がありますので，ご希望の方は1部につき80円切手4枚を同封のうえ，下記までお申込みください．

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36
福岡管区気象台技術部気候・調査課内
日本気象学会九州支部事務局